

Ⅱ 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2020年度応募 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad課題ID):20352884

研究テーマ:「農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究」

委託研究課題:「農福連携効果の学際的かつ定量的研究」

1 研究実施期間(西暦):2020年度～2022年度(3年間)

2 予算規模:9,871千円(2020年度)

3 中核機関・役職・研究総括者

東京都健康長寿医療センター研究所・自立促進と精神保健研究チーム専門副部長・岡村毅

4 研究の目的・達成目標

障がいがあるひとや高齢の人が農業に従事することの効果を定量的に把握することが目的。そのために、1)学際的研究プラットフォームを形成し、2)定量的研究を遂行し、3)効果的な農福連携の取り組み方を解明することを目標とする。

5 研究の内容および実施体制

① 農作業が障がい者の精神機能へ与える効果:農作業への継続的な関わりが農業に従事する障がい者等の前頭前野の賦活に与える効果について脳血流測定により検証。兵庫県立大学が中心となり、関西地区にて実施。

(兵庫県立大学)

② 農作業が障がい者の心体機能へ与える効果:農業に従事する障がい者等が農作業に取り組む際の心と体への影響や生産性向上についての定量評価調査表の開発、定量評価結果の分析。農研機構・兵庫県立大学が連携して実施。

(農研機構, 兵庫県立大学)

③ 農作業が身体機能に与える効果と生産性との関連:作業(障がい者・健常者)を対象とした身体活動量調査、障がい者等が行う作業の生産性の把握、事業所を対象とした営農実態調査により検証。(農研機構)

④ 認知症がある人が稲作を中心としたケアに従事するプロジェクトを継続・深化する。同時に対照群を設定して分析することでより強いエビデンスを得る。

(東京都健康長寿医療センター研究所、川室記念病院)

⑤ 上記④を実施してきた医療機関の現場(様々な専門病棟や外来)で農福連携を実装する。(東京都健康長寿医療センター研究所、川室記念病院)

⑥ 高齢化の進んだ都市部大規模団地で、認知機能の低下した高齢者を対象とする農福連携のプログラムを開発する(東京都健康長寿医療センター研究所)

⑦ 8050問題に対して、「農」を解として提案し、社会実装を探る。

(文京学院大学、東京都健康長寿医療センター研究所)

⑧ 社会的に孤立している人に対する農を用いた支援制度の現状と課題を把握する(田園調布学園大学、東京都健康長寿医療センター研究所)

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

農福連携が地域農業、地域経済、社会へ与える好影響を支えている一因には、農作業に従事する障がい者等の健康改善がある。これについて①～④で定量化することでエビデンスに基づく農福連携へと発展する。それを踏まえて⑤～⑧で、医療現場、大都市等の様々な領域へ農福連携を拡大する。

【連絡先:東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム 03-3964-3241(4218)】

< 研究概要図 >

委託研究課題名	農福連携効果の学際的かつ定量的研究
---------	-------------------

令和2年度連携研究スキームによる研究⑥「農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究」

農福連携効果の学際的かつ定量的研究

